

【日時】2026年9月8日（火） 15:00-16:10

【場所】ハイブリッド開催（オンライン・対面の併用）

【次第】1. 足元の状況

2. 今後の方針

3. 意見交換

次第1、2はそれぞれ資料に基づいて説明があった。意見交換における主なコメントは以下の通り。

＜第3期にむけた検討課題＞

- 第1期と第2期の会員向けアンケート結果の変化を知っておきたい。第2期の会員向けアンケート結果では、分科会に「一度も参加していない」又は「1～3回参加」と回答した層が回答者の半数以上を占めている。また、インパクトコンソーシアム会員約500のうち、本アンケートの回答者数は64名であり、回答者は活動に比較的積極的な会員が中心となっていると仮定すると、実際には分科会に一度も参加していない会員がさらに多い、という見方も妥当と考えられる。
第2期では裾野を広げるというコンソーシアムの目的は十分達成できたと感じる一方で、本アンケート結果では中級者・上級者向けの研究会や勉強会のニーズが一定数見受けられたことから、第3期では、そのようなニーズにフォーカスすることも検討すべきではないかと考える。
- 第2期において実施した勉強会を通じ、本アンケート結果からうかがえる以上に裾野が広がってきている。分科会での活動と一般向けの勉強会を組み合わせ、より深掘りした内容を学びたいというニーズと、入門編を学びたいというニーズの両方にどのように対応していくか、第3期において検討してもよいのではないかと考える。
- 各分科会においてさまざまな活動成果が出ている一方で、現時点では各分科会のテーマや成果が会員に十分に浸透していない面もあると感じている。第1期から情報の質および量が着実に積み上げられているなかで、今後は各分科会の活動内容や成果をより多くの会員へ正しく浸透していくための具体的な施策について検討する必要がある。
- 第2期の会員向けアンケート結果において、直近1年間でインパクトに係る取組に着手したと回答している会員は回答者の63%を占めるが40名であり、本アンケートは金融機関や事業会社に加えて個人も対象としていることもあって、全会員数（約500）対比では多くはない。今後は個別事例の蓄積に加え、例えば、全国でどの程度インパクト投融資等が行われているのかを調査する等、総量としてインパクトの実例がどの程度まで広がっているのかを確認することが望ましい。大企業に焦点を当てると、コーポレートの評価にまでつながった案件は少ないと思うが、インパクトを考慮した案件がどの程度あるのか、把握は難しいだろうが調査してみても良いのではないかと考える。
- スタートアップは社会課題の解決そのものが会社設立の目的や事業の中核であることが多く、構造が比較的分かりやすい一方で、大企業は企業価値を測る上で既存事業をインパクトというレンズで捉え直すこと自体に大きな意味があるため、エクイティストーリーとしても非常に重要な論点と考えられる。
- 今回の第2期会員向けアンケートの設問は、取組のアーリーステージにおける関心や期待を問うものが多く、その先の実行フェーズにおけるニーズについては設問が設定されていない。本アンケートの設問は、インパクト投資の裾野拡大という現行のコンソーシアムの趣旨には合致している一方で、第3期以降の方向性を考える材料となる実行フェーズにおけるニーズの有無を読み取ることができないものとなっている。

以 上